

神林地区のまちづくり



西神納：ふるさと祭り

平林・砂山
神納・神納東・西神納

まちづくり協議会



神納東：ふれあい運動会



神納：健康講話



砂山：お幕場クリーン作戦



平林：旧平小ピカピカ大作戦

Contents	神林地区まちづくり協議会 令和5年度の活動	2・3p
	小・中学校との連携事業について	4・5p
	住民アンケート結果からみる	6～9p
	かみはやし互近所ささえ～隊活動より	10p

第15号

2024.3 発行

神林地区まちづくり協議会 令和5年度の活動

神林地区では5つのまちづくり協議会が地域の特色を活かし地域活性化や課題解決のために活動を進めています。このページでは令和5年度に各まちづくり協議会が実施した事業についてご紹介します。

神納地域まちづくり協議会

健康講話・評議委員会の開催

11月13日(月)午後7時から地元、有明集落の鈴木医院 野沢医院長による健康講話を実施しました。平成28年度からまちづくり協議会事業として実施しており、コロナ禍により4年ぶり5回目の開催となりました。今回は「長引く咳について」と題し講演していただきました。参加者からは「先生の説明を聞き、数年間続いていた咳の原因が分かり大変参考になりました。今後もこのような講演会を続けてください。」などの意見がありました。講演会の最後には質問コーナーもあり、普段お聞きできない事を質問し日頃の健康管理を見直すよい機会となりました。

12月2日(土)まちづくり事業の運営に係る指導・助言などのご意見をいただく会議として評議委員会を開催し今年度の事業報告と意見交換を実施しました。(評議員は集落の区長さんで構成されております。)



西神納地域まちづくり協議会

ふるさと夏祭り

8月11日(金・祝)、西神納地域ふるさと夏祭りが神林農村環境改善センター駐車場で4年ぶりに開催され、地域の皆様にとって待ちに待ったイベントとなりました。

当日は日差しが和らいた夕方午後5時から開催し、NPO法人希楽々所属のダンスチーム「きららキッズフラ」・「ハワイアンフラ」やバレーンエンターテイナー「風船王 FOOZY」さんによるアトラクションが行われ終盤は恒例のかみはやし音頭、そして最後は大抽選会と会場は笑顔と歓声で溢れました。また会場では縁日広場や飲食ブースが設けられ、美味しい食事を楽しむことができました。西神納地域ふるさと夏祭りは、子どもたちに夏休みの思い出をつくと共に地域住民の親睦と交流を図り、地域の絆を深める素晴らしい機会となりました。今後もこのようなイベントを継続し、地域の活性化に努めてまいります。

ご来場いただいた皆様、関係者の皆様、誠にありがとうございました。



神納東地域まちづくり協議会

神納東ふれあい運動会

地域住民の交流を図るため、集落を越えた交流の場を創出し、「市民協働のまちづくり」への意識を高めるとともに、地域住民の健康づくりと関係集落の協力関係の構築を目的として4年ぶりに神納東ふれあい運動会を開催しました。当初は旧神納東小学校のグラウンドで開催する予定でしたが、グラウンドの悪状況から村上市屋内遊び場をお借りして体育館で開催しました。

運動会競技は6集落が玉入れや綱引きなど4種の集落対抗競技で順位を競ったほか、未就学児を対象にお菓子を目指して走る幼児レースや先着100名限定のパン食い競争、全員参加の防災〇×クイズを行いました。防災〇×クイズに正解して最後まで残った10名には防災用品が30点セットの防災リュックの景品が贈られました。

競技の最後には来場された全員でかみはやし音頭を踊り、秋の祝日にぴったりの爽やかな運動会になりました。



平林地域まちづくり協議会

旧平小ピカピカ大作戦

地域住民が集落の垣根を超えて交流を深めることを目的に、平林地域まちづくり協議会恒例事業である地域交流事業を4年ぶりに開催しました。コロナ禍前は、水辺の楽校などで芋煮会を行ってきましたが、今年度は、10月7日(土)に旧平林小学校を会場に「旧平小ピカピカ大作戦」を開催しました。

当日は、7集落それぞれの担当箇所を決め、旧平林小学校1階を皆さんで協力しながら、一生懸命に校舎の清掃を行いました。その他に記念撮影(ドローンによる空撮)、ドローン体験、最後に参加者でお弁当を食べ、子どもから大人まで地域住民約85人が交流を深めました。

また、参加者は、久しぶりに校舎内を見て回り、当時を懐かしんでいました。



砂山地域まちづくり協議会

お幕場クリーン作戦

お幕場の保全活動をとおして、地域住民の一体感の醸成と住みよい地域づくりに貢献することを目的に10月9日(月)お幕場森林公園にて砂山地域まちづくり協議会恒例行事であるお幕場クリーン作戦を開催しました。今年度は、砂山地域住民、平林小学校に呼びかけを行い、地域住民の方をはじめ、平林小学校南波校長先生、小学生、小学生の保護者の方に参加いただき盛大に開催することができました。

清掃作業終了後、参加者全員を対象にじゃんけん大会を行い、豪華景品を求めて子供から大人まで大いに盛り上がりしました。

砂山地域まちづくり協議会では、砂山地域の誇れる美しい松林「お幕場」を守っていくため、今後も環境整備活動を続けていきたいと考えております。



神林中学校との連携事業

防災から学ぶ

地域の役割



▲ 志田平区防災訓練 津波を想定して救助訓練。高台の八幡神社へ。

小小区防災訓練 消防団と救助訓練 ▶

令和5年8月27日(日)は市内一斉の防災訓練が行われました。神林地域では集落の防災意識向上と中学生の防災への知識を深めるため、市の防災訓練に合わせ実施する集落の避難訓練に中学生が参加して、災害時に集落避難場所までの避難経路の確認や避難場所での避難者受入れの準備など災害時に集落ではどのようなことを行っているのか学びました。

集落によっては担架で体の不自由な人や怪我人を高台まで運ぶ訓練を行う集落や災害により火災が起きた時の消火訓練を行う集落もありました。



訓練終了後、中学生は登校して参加した集落のグループ毎に訓練内容をまとめて発表を行いました。各まち協の運営委員もオブザーバーとして参加しました。

生徒の感想の中には「自分の命を守るために日頃から積極的に地域の避難訓練に参加して避難経路などの確認をしようと思った」「住んでいても分からないことがたくさんあり、家族と話し合うことが大切だ」と話していました。

令和6年は元旦から能登半島地震が起き、多くの方が被害に遭い、長期に渡る避難所生活を余儀なくされました。日頃から避難経路の確認や防災用品の準備など自分でできることを行い、災害発生時に別行動していても家族で待ち合わせの場所や時間を決めるなど家族内での話し合いも非常に重要です。

神林地区のまちづくり協議会では今後も防災の事業に取り組む安全安心のまちづくりを進めてまいります。



平林小学校との連携事業

地域の威信をかけた戦い!!

運動会 「まち協主催競技 玉入れ」

令和5年5月20日(土)の平林小学校運動会で地域住民と児童の交流を目的に平林・砂山まち協主催競技として玉入れ競技を実施しました。

玉入れは平林地域VS砂山地域で行い地域住民と保護者に参加を呼びかけ、児童と一緒に応援し合いながら楽しく競技を行うことができました。



子どもたちに豊かな経験を

昼休みを活用した「こころ」昼休みの実施

平林小学校の取り組みとして令和5年度から地域の方々と交流して様々な経験をしてみたいという目的から通常よりも休憩時間の長い昼休みの日をつくり、地域住民と児童と一緒に活動を行ってきました。平林・砂山まち協はこの活動に協力し、これまで季節に合わせて七夕飾りやクリスマスカードの作成、ボッチャゲームなどを行いました。



神納小学校との連携事業

踊って交流がみはやし音頭

令和5年5月20日(土)の神納小学校運動会で地域住民と児童の交流を目的に神納・神納東・西神納まち協で企画し、かみはやし音頭を踊りました。新型コロナウイルスが5類に移行して初めての運動会で保護者や地域住民の観覧に制限を設けずに行われたため、大勢の方に踊っていただきました。

児童は事前に練習して本番では上手に踊ってくれました。大人たちは児童をお手本に昔踊った記憶を思い出しながら、間違えても児童と笑い合いながら踊りました。



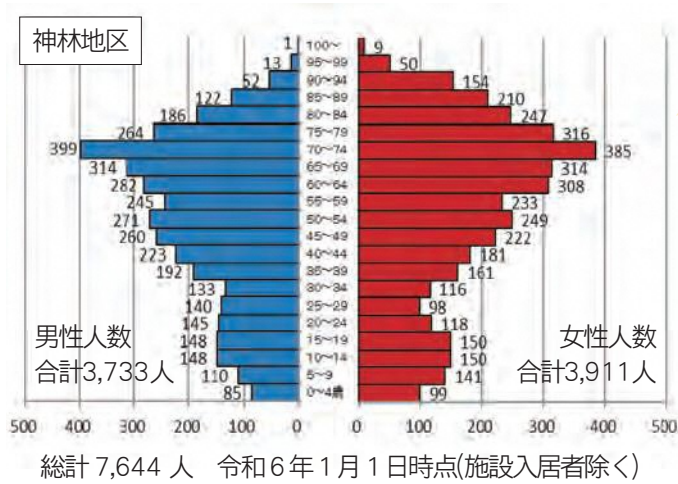
神林地区のまちづくり協議会ではこれまで紹介した児童・生徒と地域住民の交流促進のほかにも、卒業生へのお祝い品や式典への鉢花の贈呈、学び場をサポートする活動を小中学校と協議しながら進めています。

全住民アンケート調査 分析レポート

令和5年6月に神林地区の中学生以上を対象に実施したアンケートは皆さまのご協力から **神林地区全体で90.9%**と高い回収率を得ることができました。大勢の皆さまに配付・回収作業、アンケート回答にご協力いただきありがとうございます。

このページでは神林地区全体の分析結果から重要な部分をピックアップして掲載しています。更に詳しい内容が見たい方は各まちづくり協議会 HP、9ページのQRコードからも神林地区、各まちづくり地域の分析結果を確認することができますのでぜひご覧ください。

減り続ける人口



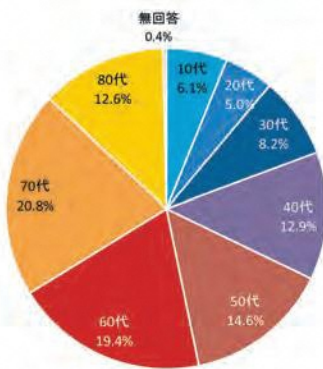
つぼ型人口ピラミッド

将来、ピラミッドの形は変わらず人口だけ減っていくと予想される。人口が減ればこれまでと同じ方法では集落の維持管理が立ち行かなくなったり、一人あたりの役割が増加して負担が大きくなったりする。地域・集落で支え合う仕組みづくりや課題解決への取組が今から必要ではないか。

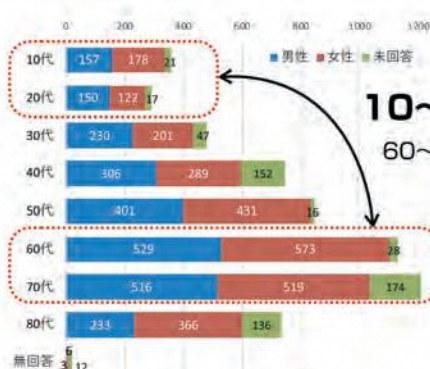
合併当初神林地区には約1万人が暮らしていたが、15年で約2,200人の人口が減っている。

アンケート回答の世代・性別等

回答者の年代



回答者の年代と性別



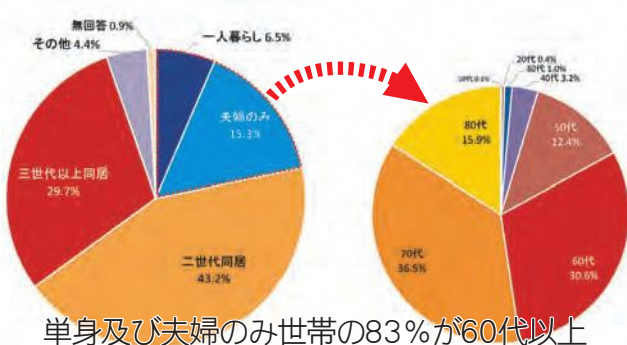
若者世代は少数派

アンケートの結果は年代別の回答割合でみる必要がある。

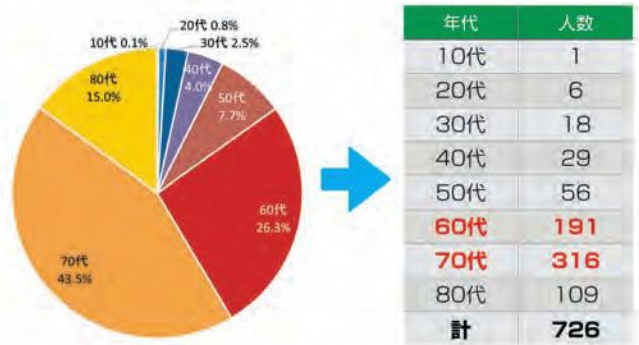
10~20代は60~70代の3割以下



回答者の世帯構成 (年代別)

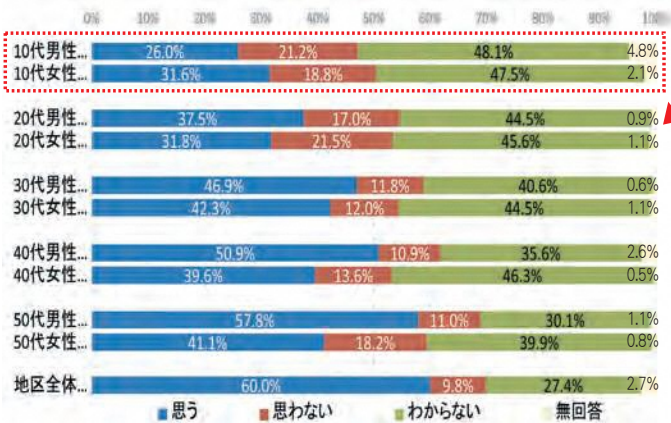


農作業従事者の年代構成



地域に住み続けたい？

定住意向（年代別×男女別）



60代以上で住み続けたいが6割～8割弱と高いため平均した地域全体は60%と高数値だが、年代別の考えには大きな相違がある。

10～20代、30～50代女性の「住み続けたい」が3割弱～4割と各地域全体的に低い!!

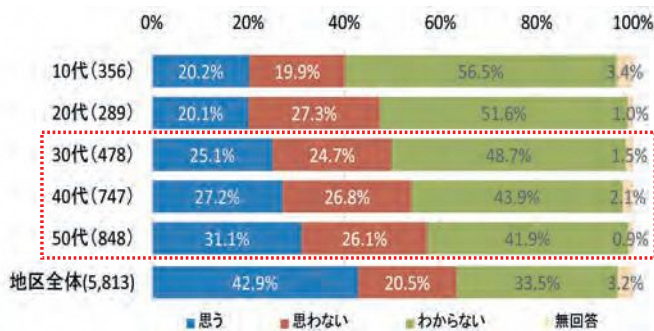
⇒H29年度のアンケートよりも住み続けたいと思う人が割合的に減っている。ただし若い世代は「わからない」も4割以上！地域毎に若い世代の意見を言える場や意見交換の場の提供が必要か。

⇒P8の日々の暮らしの心配ごとには10代の1番心配なことは進路・就職についてである。大学卒業後など帰ってきたいと思える環境とは。

⇒世間では個人主義の世の中になりつつある昨今、30～60代の中堅世代は近所づきあいや地域・集落での仕事や行事が多くて忙しいという悩みも多い。一人ひとりの負担軽減にも目を向けて行かなければならない。

子どもにも住み続けてほしい？

子どもへの定住意向（年代別）



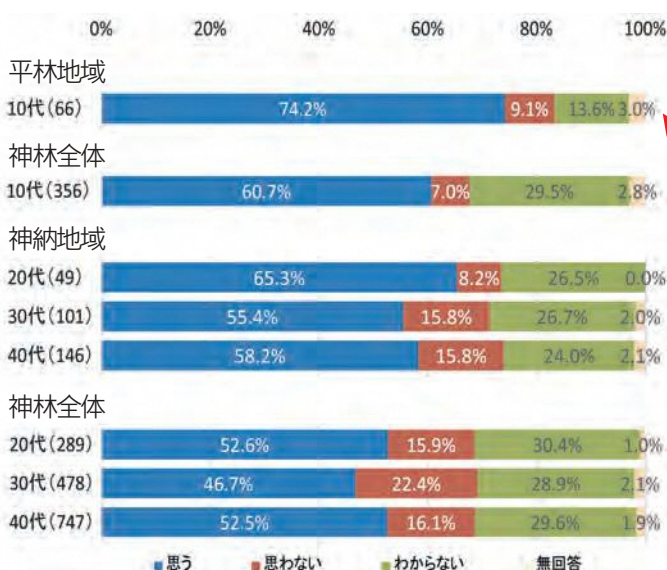
親世代(30～50代)の意向が子ども世代の意向に影響していないか?! (赤点線部)

10～50代の子どもたちと子育て世代の「子どもに住み続けてほしいと思う」の割合が低い。住み続けてほしいと「思う」と「思わない」の割合が、20代に至っては「思わない」のほうが多い。

⇒若い世代は「わからない」が4割～6割弱、これからの取り組み次第で変えていける？「わからない」が「思わない」に変わらないようにしないといけな。

神林全体と愛着が高い地域の比較

地域への愛着の有無（年代別×地域別）



神林全体は神納地域も含めて割合を算出しているため他地域は4割程度の地域もある。

地域への愛着は？

60代以上は神林地域全体で「愛着がある」と回答した人が7割～8割弱と高数値。10代男女は「愛着がある」は6割(H29年度より1割程度増加)で悪くない。

●5地域の中でも平林地域は10代の「愛着がある」と回答した割合は7割と突出している。

●5地域の中で神納地域は20～40代の「愛着がある」と回答した割合がどの年代も高い。特に女性の愛着が他地域に比べて高く、集落での体制などヒントがあるのではないかと。

地域への愛着は高くても定住意向に繋がっていない!! 将来への希望・安心感が足りていない!! (不安の方が大きい)

日々の暮らしの心配ごと

年代ならではの心配事はあるものの、心配事の内容は世代間で極端な差はない。

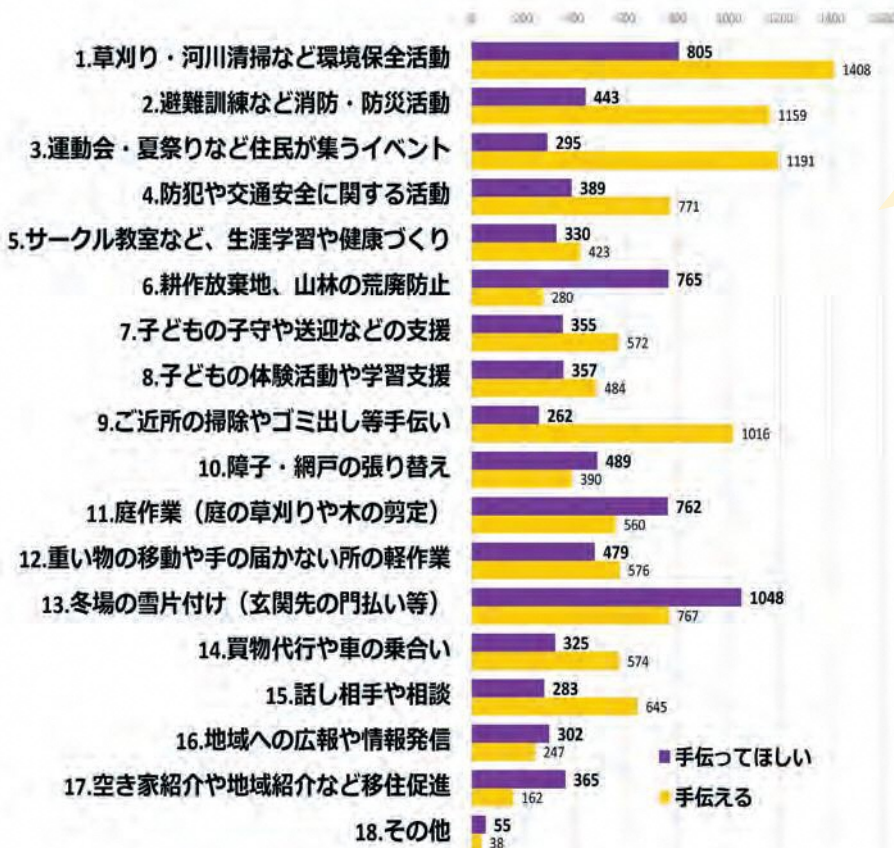
各世代で選択が多かった項目

- 1 自分自身の健康面 42.5%
- 2 屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪 36.9%
- 3 災害への備えや避難など防災・安全 36.7%
- 4 空き家が増えて管理が行き届かなくなる 31.3%
- 5 安定して収入を得られるか 27.1%
- 6 農業を営む環境(担い手を含む)や農地・山林の維持管理 25.6%
- 7 親の介護や生活支援 25.5%
- 8 医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか 23.9%
- 9 近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になる 19.2%
- 10 買い物・通院などの交通手段 16.1%
- 11 進学・就職 9.5%
- 12 安心して子育てができる環境があるか(保育園・学校/親同士の交流等) 9.1%
- 13 通学・学習環境 7.3%

各世代順位

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
				4位	1位	1位	1位
5位	1位	4位	4位	3位	4位	2位	2位
3位	2位	2位	3位	5位	2位	3位	3位
			5位		3位	4位	
	4位	1位	2位	2位			
					5位	5位	
	3位	2位	1位	1位			
							4位
4位	5位						
							5位
1位							
		5位					
2位							

手伝ってほしい・手伝えること



大半の項目で
手伝ってほしい<手伝える
のほうが多い。

⇒環境保全の活動や防災関連、住民が集うイベント、冬場の雪片付けなどは項目によっては若者・中堅世代もそれなりの人数が「手伝える」と回答している。

⇒手伝えると思っけていても誰を手伝えたいのか分からない。手伝ってほしい人も迷惑にならないか不安。お互いが声を掛けづらくなっている。

⇒日々の暮らしの心配事も含め、手伝ってほしい人と手伝える、手伝ってほしい人と思っけている人を繋げる仕組みづくりを地域・集落と一緒を考えていくため「かみはやし互近所ささえ〜る隊」は活動をしています。

これからの地域づくりで大切なこと

年代ならではの心配事はあるものの、心配事の内容は世代間で極端な差はない。

各世代順位

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1位	1位	1位	1位	1位	1位	3位	3位
2位	5位	4位	5位	5位	3位	1位	1位
		5位	4位	3位	2位	2位	4位
4位	2位	3位	3位	4位	5位	5位	5位
5位	3位	2位	2位	2位	4位		
3位	4位					4位	2位

各世代で選択が多かった項目

- 子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする 52.9%
- 思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする 42.2%
- 車の運転をしなくても、家族に負担を掛けずに安心して外出・移動できる地域 41.5%
- 安心・安全に暮らせるよう、常日頃から災害への備えをしている地域にする 39.2%
- 安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく 37.8%
- いつまでも元気に暮らせるよう、健康づくりを積極的に後押しする 35.0%
- 日頃から気軽に相談・話し合いができる場・機会が、身近にある地域にする 19.7%
- 農業が継続できる営農環境を整え、農地山林をこれからも維持管理していきける地域にする 18.1%
- 地域の営みが持続可能なものとなるよう、地域の役職や共同作業のやり方を柔軟に考えていく 15.8%

どの世代も大切と感じている課題は共通している。

年代ごとの特徴として…

⇒30～50代の現役世代にとって、働く場所や安定した収入、また、支え合いや助け合いができる地域など、将来安心して過ごせる地域づくりを重視している

⇒50～70代は、運転が徐々に不安になっていく世代+送迎を担う世代が大切だと思っている

⇒70代以上の高齢世代は、さらなる共助の充実が最重要課題だと思っている

アンケートを終えて

平成29年度のアンケートと見比べても、住み続けることへの不安の声や地域・集落の行事や役割などに対して消極的な意見が目立つようになりました。その一方でまちづくりの学校連携や集落、学校など各方面の取り組みにより10代の地域への愛着の割合が増えていることなど、成果としてでているものもあります。

時代の変化とともに課題に対して慣習に囚われず、行政、まちづくり協議会、そして各集落も対応していくことが必要と感じています。

詳しい内容は下記QRコードを読み込むと各まちづくり協議会のアンケート公開ページをご覧ください。神林地区全体のレポートはどの協議会ページからでもご覧になれます。



平林地域
まちづくり協議会



砂山地域
まちづくり協議会



神納地域
まちづくり協議会



神納東地域
まちづくり協議会



西神納地域
まちづくり協議会

「小中学生の子どもを持つ世代とのワークショップ」で 子どもを持つ視点と親を考えた視点で考える

～かみはやし互近所ささえ～る隊活動より～

かみはやし互近所ささえ～る隊では住民の皆さんが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために、みんなでささえあう地域に合った「助け合いのしくみ」づくりに取り組んでいます。

令和3年度「消防団とのワークショップ」、令和4年度「老人クラブとのワークショップ」そして今年度「小中学生の子どもを持つ世代とのワークショップ」を開催しました。

子供を持つ視点と自分の親を考えた視点で課題や解決策を話し合いました。その中で2つの共通のワードがありました。



それは【移動】と【居場所】です。

【移動】に関しては、「高齢となる親を考えた時に、免許返納後の通院や買い物などで気軽に利用できる移動手段があると良い」、「子どもの自主性も尊重しつつ、友だちと遊んだり、遊び場に行くために安心して利用できる移動手段があれば良い」という意見が出ました。

【居場所】に関しては、「荒天時や冬期間の子どもの居場所、高齢者の自宅以外の出かける場所があると良い。それを解決するために、集落センターや廃校を活用したらいいのではないか」という意見が多数ありました。

さらに高齢者が子どもたちの見守りを行う事が出来れば、【交流】が生まれます。集落センターの活用を実現できれば、そこからまた様々なアイデアが生まれるかもしれません。

可能な事、困難な事がありますが、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、できるところから始めてみませんか？ かみはやし互近所ささえ～る隊は、このようなお手伝いが出来ればと考えています。

まちづくり協議会は、少子高齢化や人口減少などに伴う課題解決や集落活動への支援を含め、包括的な地域のまちづくりに取り組んでいます。